

企画展示のご紹介

植物と虫 ～助ける助けられる

- 期間：7月23日（木）～8月31日（月）
- 会場：こんちゅう館内 多目的ホール
- 内容：植物と昆虫の切っても切れない「共生関係」について、① 共進化、② 植物の毒と昆虫、③ アリ植物、④花粉の媒介と昆虫、⑤ 種子の散布と昆虫、⑥ 植物とかくれる昆虫、⑦ 土壌の生成と昆虫、などについて、標本や生きている昆虫・植物をまじえて展示・解説します。
20 cmもの長い口吻を持つ「キサントパンスズメガ」の標本、アリを寄生させて身を守る植物「アリノトリデ」、ランの花そっくりな「ハナカマキリ」の生体など、見どころいっぱいです！（藤井）



イベント案内

- ★ 9月
 - ・企画展示「秋の鳴く虫」：12日（土）～27日（日）
 - ・観察会「草原の虫編」：6日（日） 10：30～11：30 事前申し込み 30名程度
 - ・大人の昆虫講座「絶滅のおそれのある昆虫たち」13日（日）13：30～14：30 事前申し込み 30名程度
 - ・観賞会「森の音楽会」：22日（火・祝）13：30～14：30 事前申し込み 30名程度
- ※ 新型コロナウィルス感染症の拡大状況により、中止・変更などの可能性があります。
- ※ 申し込み締切日等の詳細につきましては、こんちゅう館までお問い合わせください。

こんちゅう館 News 新シリーズ Vol.1 夏号 2020年8月1日

編集/発行 us36.5 遊学の森 広島市森林公園 こんちゅう館

TEL (082)899-8964 FAX (082)8998233 HP <http://www.hiro-kon.jp/>

こんちゅう館 News

み～んな主役！！ 虫の館のスターたち ①

ナミゲンゴロウ *Cybister chinensis*

ゲンゴロウ科 コウチュウ目



成虫



雌が卵を産むヘラオモダカ



幼虫



さなぎ

タガメと並び大人気の水生昆虫です。流線形の体、強力な推進力をうむオールのような後脚、前翅と腹の間に空気をためて酸素ポンペのように利用する仕組みなどにより、水中に長い時どまり、巧みに泳ぐことができます。展示水槽の中では、水草や沈木につかまって静止していることが多いため、ときに冷凍アカムシなどの餌を与え、遊泳や採餌のようすを来館者に観察してもらうようにしています。

近年、開発や農薬の影響により絶滅が危ぶまれています。そこで、昆虫館では繁殖飼育に取り組んでいます。冬を越した成虫は、5・6月に交尾をし、雌は水面に突き出た植物の茎の中に卵を産みます。ふ化した1令幼虫は水中に入り、ヤゴやオタマジャクシなどを食べて成長します。約40日後、2回の脱皮を経た3令幼虫は、上陸して土中でさなぎになります。そして、成虫は約30日後に地表に現れ、来館者の目を1～2年にわたり楽しませてくれます。（松尾）

パピヨンドームの舞姫 ①

オオゴマダラ *Idea leuconoe*

タテハチョウ科 チョウ目



成虫



さなぎ



幼虫



ホウライカガミの群落(沖縄県西表島)

パピヨンドームで一番目立つチョウといえば「オオゴマダラ」です。与論島以南の島々に生息し、沖縄県の「県のチョウ」に選定されています。

幼虫が食べる「ホウライカガミ」の葉には、有毒なアルカロイドという成分が含まれています。幼虫が体内に取り込んだアルカロイドは、さなぎ・成虫へと引き継がれます。いずれもが目立つ容姿をしていて、成虫がゆるやかに飛ぶのは、「自分は有毒でまずいよ！」とアピールし、鳥など天敵の捕食をまぬがれるための策略なのです。

オオゴマダラの成虫は、1カ月以上、ときには3カ月も生き続けることができます。この長寿も、アルカロイドのおかげです。まさに「良薬口に**りんぶん**にがし」というわけですね。

アルカロイドは、体内だけに蓄えられています。鱗粉や体毛にはありませんから、「ドクチョウ」といっても、食べでもしなければ全く無害です。安心して観賞してください。(藤井)

トンボ池の四季 2020 夏

トンボ池は、1989年に水生昆虫を観察するために整備されました。当初は水生植物が繁茂し、多様な昆虫類が見られました。ところが、コイやカダヤシ・ミシシippアカミガメなどの外来生物や、シカの食害によって植生が貧弱になり、生物がひどく減少しました。そこで、2018年から植生と動物相の復元を目的として、外来種の駆除、防獣柵の設置に取り組んでいます。

現在、植生は順調に回復し、水生昆虫たちが戻ってきています。夏、マルタンヤンマやクロスジギンヤンマ・オオルリボシヤンマなどが飛び交います。水中にはヤゴ類やマツモムシ、オオコオイムシ・ガムシ・クロゲンゴロウなどの姿を見ることができます。今後、本誌にて、四季おりの池のようすと、そこに暮らす昆虫や植物の姿をお届けします。(逸見)



クロスジギンヤンマ



クロゲンゴロウ



モノサシトンボの交尾



草いきれのする
真夏のトンボ池
そこは 生き物の楽園



サイジョウコウホネ

こんちゅう館の季節の虫

ミヤマクワガタ *Lucanus maculifemoratus*

「ミヤマ」とは「深山」のことですが、低地や瀬戸内海の島々にも生息します。

こんちゅう館では、7・8月に、アラカシの樹液や、飼育室の明りに飛来した個体をよく見かけます。(逸見)



パピヨンドームの花

ハイビスカス *Hibiscus* spp.

蜜つぼまでの距離が長い
ため、長い口吻を持つ、オオゴマダラやナガサキアゲハなどがよく訪れます。

ツマベニチョウにとって
も大のお気に入りです、吸蜜する姿は、絶好の被写体となります。(藤井)

